

テーマ 生きづらさを抱えるいのちに出会う

2021年 3月14日(日) 15:00~16:30

○ オンライン (Zoomミーティング) &
○ 日本キリスト教団 洛南教会
《オンライン双方向参加方式》



【参加申込みは裏面をFAXしてください】

奥田 知志(おくだ・ともし)さん

新型コロナウイルス感染拡大により昨年延期しました宣教セミナーを、Zoomにて開催いたします。

奥田知志さんのこれまでの視点に加えて、このコロナ禍における私達の生き方や人のいのちについて、想いや考えを分かち合いたいと思います。

個人はもちろん、各伝道所や教会において、一つの集会行事としてZoomにつなげて、皆さんでご参加頂ければ幸いです。

日本バプテスト連盟 東八幡キリスト教会牧師・NPO法人 抱樸(旧北九州ホームレス支援機構)理事長・NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク理事長他

講題 「絆は傷を含む — 自分の十字架とは何か」

講師 奥田知志さん (日本バプテスト連盟 東八幡キリスト教会牧師
・NPO法人 抱樸理事長)

ショートメッセージ 『煉瓦の教会を目指して』 奥田知志

煉瓦を組み上げた建物、特にアーチ型になっているもの、例えば長崎の眼鏡橋や伊豆の旧天城トンネルなどを見ているとなぜか落ち着く。

それらは四角い煉瓦を用い見事な曲線を描き出している。一つ一つは、固く冷たい感じがする角ばった煉瓦が、職人の手によって組み合わせられ見事な曲線を描き出す。しかも、それが力学的に最も強い構造だという。

僕らの現実も、実は角張って冷たく固いのかも知れない。でも積み方ひとつで私たちは、全く別の滑らかな世界を体現できる。名職人の手によって積み上げられた私たちは、一体となり丸い曲線を描き出す。ひとつが大きくて立派である必要はない。大きすぎる煉瓦は困る。それぞれが分を知り適当な大きさに良いのだ。個々の

煉瓦は小さいほど曲線は滑らかになる。そして、人の心を和ませる。ここに希望がある。

名職人はイエスだ。イエスに積み直しただこう。ギクシャクし角ばったこの世界をなめらかな曲線にしてもらおう。お互いが無くてならぬ一個の煉瓦であることを喜び尊重しよう。ひとつも抜けてはならない。なめらかな世界を作るために命をも投げ出すこの名職人は、私たちを丸くなめらかな世界へと積み直し、その建物には多く人が憩うようになる。

「煉瓦の教会」。素敵だと思う。東八幡教会に赴任して30年になる。僕らは、少しは滑らかになったろうか。

